

第2章 文化財の概要

1. 指定等文化財の概要

勝山市内では 85 件(令和 4 年 8 月現在)の文化財が指定・登録されています。文化財種別ごとの代表的なものは 28 ページに掲載しています。まず、最も多い指定等文化財は有形文化財(建造物:16 件)で、次いで記念物(遺跡:11 件)、記念物(動物・植物・地質鉱物:10 件)が多く指定されています。一方、有形文化財(絵画・工芸品・書画)、記念物(旧跡)は各 1～2 件と非常に少なく、無形文化財・伝統的建造物群保存地区・文化的景観は指定件数が 0 件という現状にあります。また、指定区分では、市指定が 67 件と多数を占めており、今後は県・国指定を増やしていくための調査研究が必要です。

次に、29 ページの分布図及び資料編の文化財一覧から、指定等文化財の分布状況や時代などの特徴を見ていきます。まず、分布は市全域にみられますが、特に勝山地区と平泉寺地区に多い傾向があります。次に、時代は近世の勝山藩や勝山城下町に関わる文化財、旧木下家住宅をはじめとする農山村の人びとの暮らしに関わる文化財、近代以降の民俗文化財(特に繊維産業に関わるもの)が比較的多く指定されています。

指定・登録文化財の件数(令和 4 年 8 月現在)

分類	種別	国指定	県指定	市指定	国登録	合計
有形文化財	建造物	1	0	8	7	16
	絵画	0	0	2	0	2
	彫刻	0	3	3	0	6
	工芸品	0	0	2	0	2
	書跡	0	0	6	0	6
	古文書	0	0	6	0	6
	考古資料	0	0	4	0	4
	歴史資料	0	0	7	0	7
	書画	－	－	1	－	1
無形文化財		0	0	0	0	0
民俗文化財	有形	0	0	4	0	4
	無形	0	1	5	0	6
記念物	旧跡	－	－	1	－	1
	遺跡	1	1	9	0	11
	名勝地	1	1	1	0	3
	動物・植物・地質鉱物	2	0	8	0	10
伝統的建造物群保存地区		0	－	－	－	0
文化的景観		0	－	－	－	0
合 計		5	6	67	7	85

文化財種別ごとの代表的な文化財

【有形文化財】



旧木下家住宅
(建造物・国指定)



旧料亭花月楼
(建造物・国登録)



銅造 阿弥陀如来坐像
(彫刻・県指定)

【民俗文化財】



勝山左義長
(無形民俗・県指定)

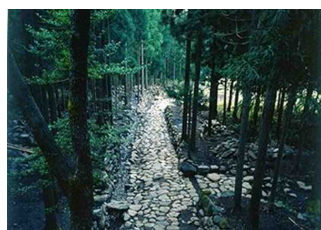


谷のお面さん祭り
(無形民俗・市指定)



いざり機・ボタン機
(有形民俗・市指定)

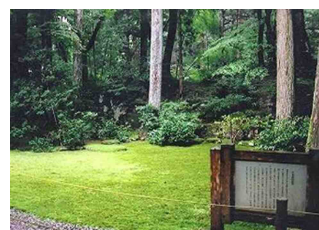
【記念物】



白山平泉寺旧境内
(遺跡・国指定)



三室遺跡
(遺跡・県指定)



旧玄成院庭園
(名勝地・国指定)



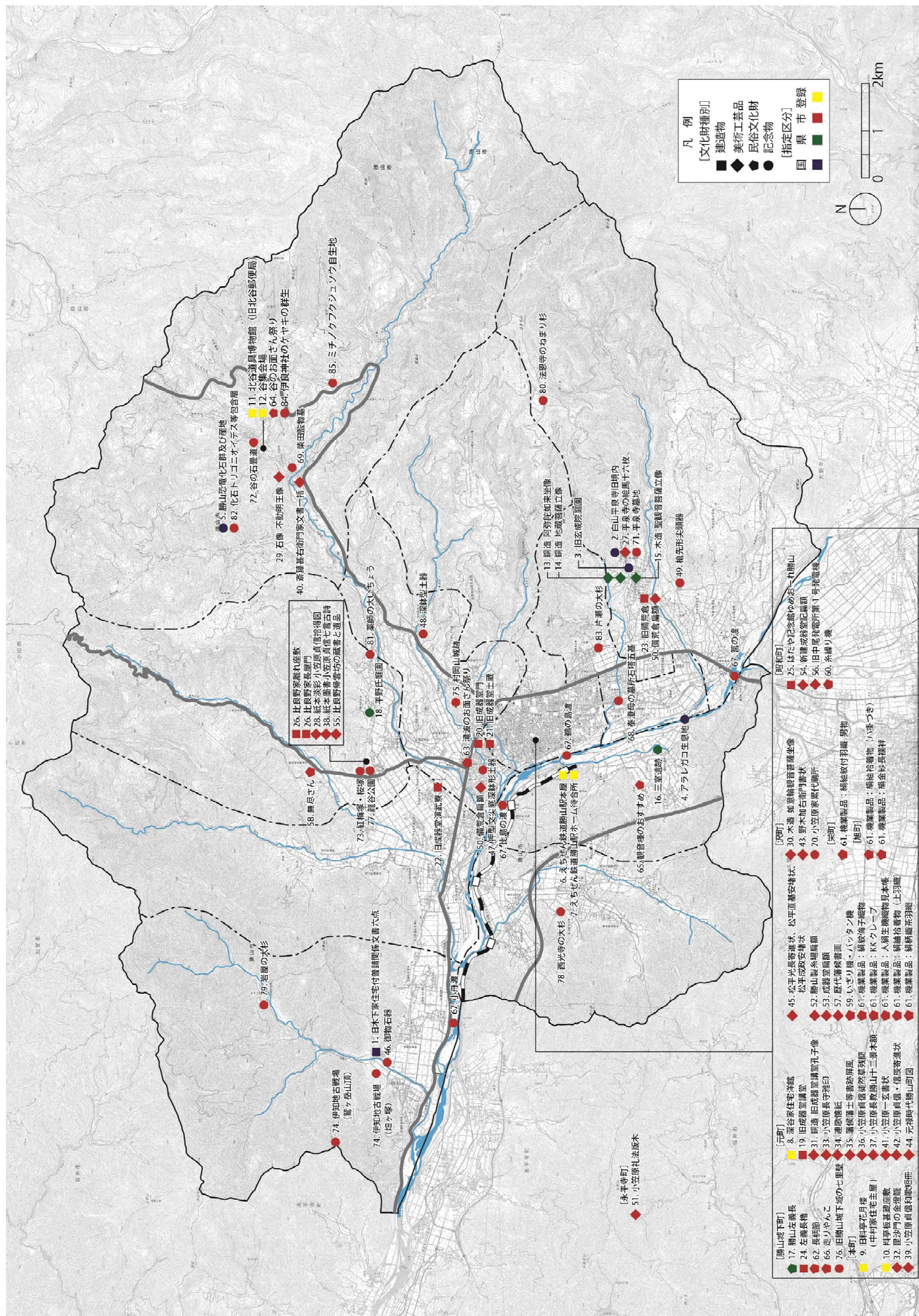
平野氏庭園
(名勝地・県指定)



アラレガコ生息地
(動物・植物・地質・地質・国指定)



恐竜化石群及び産地
(動物・地質・地質・地質・国指定)



2. 未指定文化財の把握

未指定であっても、勝山の歴史文化を知ることができ、これまで大切に伝えられてきた文化財が市内には数多くあります。本計画作成にあたっては、序章などでまとめているようにエコミュージアムやジオパークの活動などによって発見されたものや、各地区で作成してきた地域マップ、第5章(52～55 ページ)でまとめる『勝山市史』をはじめとした文献、建造物や石造物、埋蔵文化財の調査等をもとに、指定等及び未指定の文化財リストを作成しました(リストは資料編参照)。特に未指定文化財は、本計画を進めていく中で再調査するとともに、このリストにはない新しい文化財も発掘し続けます。

下表は、指定等文化財を含めた地区別の文化財の件数で、現在 1,041 件あります。この内の未指定文化財は 956 件です。地区別に見ると、勝山地区が全体の約 4 分の 1 を占め、平泉寺地区が 147 件と続きます。27 ページの指定等文化財の件数と比較すると、無形文化財と文化的景観、伝統的建造物群の指定等が 0 件であること、記念物(遺跡)及び埋蔵文化財は未指定の件数が多いことから、指定等による保存・活用を進めていく必要があります。

地区ごとの文化財の件数(指定・登録文化財を含む／令和 4 年 8 月現在)

分類	種別	勝山	猪野瀬	平泉寺	村岡	北谷	野向	荒土	北郷	鹿谷	遅羽	全城市外	合計
有形文化財	建造物	83	10	13	6	21	16	16	6	13	6	0	190
	美術工芸品	95	19	44	18	13	10	19	21	23	14	1	277
無形文化財		1	3	1	0	4	2	6	2	5	0	1	25
民俗文化財	有形	10	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	13
	無形	7	6	3	1	4	5	10	1	0	1	4	42
記念物	遺跡	32	13	38	19	18	22	27	30	17	14	0	230
	名勝地	2	3	14	6	14	7	1	5	3	3	0	58
	動物・植物・地質・鉱物	1	3	6	2	8	6	2	7	4	2	2	43
文化的景観		0	0	2	1	2	2	2	1	6	2	1	19
伝統的建造物群		5	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	9
埋蔵文化財		9	13	25	17	4	9	14	12	26	6	0	135
合 計		245	70	147	71	92	80	97	85	97	48	9	1,041

3. 文化財の特徴

(1) 類型ごとの特徴

①有形文化財

有形文化財は467件あり、文化財の6類型の中では最も多くなっています。

a. 建造物

建造物は190件あり、その内の指定等文化財は16件です。農家建築の旧木下家住宅(国指定)や神社建築の平泉寺白山神社本社などは、永平寺大工が関わった建造物です。旧勝山城下町域の町家や各地区の農村集落にある真宗地域に独特の間取りを持つ民家は未指定のものがほとんどですが、明治時代以降の規模の大きいものも残っています。また、旧成器堂講堂(現神明神社社務所)など、幕末に勝山藩がつくった藩校関係の建造物(市指定)は、県内でも珍しく、大変貴重です。

市内現存最古の織物工場であるはたや記念館ゆめおーれ勝山(市指定)や旧料亭花月楼(国登録)をはじめとして、近代以降の産業の発展を象徴する建造物もあります。また、磯崎新氏設計の住宅や黒川紀章氏設計の県立恐竜博物館など、芸術性の高い現代建築があります。

このほか、平泉寺白山神社の楠木正成墓・泰澄大師廟や野向町越戸峠の石龕、神明神社の石灯籠など、優れた造形と歴史を伝える笏谷石製の石造物があります。

b. 美術工芸品

美術工芸品(建造物以外のもの)は277件あり、その内の指定等文化財は35件です。勝山城下町の景観を描いた「元禄時代勝山町図」(市指定)、平泉寺の最盛期の様子を描いた「中宮白山平泉寺境内図」、平泉寺から白山山頂への行程を描く「白山天嶺境内絵図」などがあり、地域の歴史景観を知る重要な資料となっています。

平安時代から鎌倉時代の仏像として、木造聖観音菩薩立像(県指定)、銅造阿弥陀如来坐像(県指定)、銅造地藏菩薩立像(県指定)はいずれも平泉寺地区にあり、白山信仰の歴史を伝えています。

毘沙門の金燈籠(市指定)は高岡(富山県)で製作された銅器の優品で、かつては勝山城下町の常夜燈として本町通りに設置されていました。また、勝山藩主小笠原氏に関わる短冊、屏風なども残されています。

このほか、最も件数が多いのが石碑で225件あり、人物や施設などの歴史を伝えるものとなっています。

②無形文化財

無形文化財は25件あります。指定等文化財はありませんが、「鯖の熟れ鮓し」・「鮎の甘露煮」、真宗信仰と関連した「報恩講(ほんこさん)料理」、お祝い事の食事としての「ぼっかけ」など伝統的な「食」に関わるものや、特産品としての「勝山水菜」・「若猪野メロン」・「太仏里芋」、「こね鉢・臼作り」・「桶作り」・「炭焼き」・「ござ帽子づくり」・「串柿作り」・「山菜加工」などの「伝統技術」があります。

③民俗文化財

民俗文化財は55件あります。

a. 有形民俗文化財

有形民俗文化財は13件あります。勝山地区に10件が集中し、その全件がいざ

り機・ボタン機(市指定)、糸操り機(市指定)、人絹生機織物見本帳(市指定)など織物業に関わる指定文化財となっています。

b. 無形民俗文化財

無形民俗文化財は 42 件あります。伝承や行事・祭礼などに関わるものが多く含まれます。地区別には荒土地区が 10 件と最も多くなっています。勝山左義長(県指定)は、地区ごとに櫓を立て、お囃子を奏でる独特のものです。

④記念物

記念物は 331 件あり、有形文化財に次いで多くなっています。

a. 遺跡

遺跡は 230 件あり、その内の指定等文化財は 11 件です。寺社や鉱山跡、伝承地、木地師や平家落人伝説に関わる地名なども含まれます。白山平泉寺旧境内(国指定)は、白山信仰の拠点として栄え、中世の坊院群が発掘されています。また、泰澄母の墓所(市指定)や村岡山城跡(市指定)、勝山藩主小笠原家累代廟所(市指定)などがあります。

b. 名勝地

名勝地は 58 件あり、その内の指定等文化財は 3 件です。伝承のある清水・池・滝・岩などが含まれます。平泉寺白山神社の旧玄成院庭園(国名勝)や江戸時代の有力農家の庭園である平野氏庭園(県指定)があります。

c. 動物・植物・地質鉱物

動物・植物・地質鉱物は 43 件あり、その内の指定等文化財は 10 件です。大岩や樹木などが含まれます。勝山恐竜化石群及び産地(国指定)や九頭竜川のアラレガコ生息地(国指定)は勝山市の独特の地質や自然環境をあらわしています。

⑤文化的景観

文化的景観は 19 件あります。指定等文化財はありませんが、市の西部から見ることのできる白山の遠望、大日山などの加越山地の景観、平泉寺や浄土寺の石畳の道、「勝山八景」の一つである越前甲の雪形「鶴峰の残雪」、蓬生坂や安波賀街道などの交通に関わるものがあります。

⑥伝統的建造物群

伝統的建造物群は 9 件あります。指定等文化財はありませんが、本町等「勝山三町」の通りと町家や昭和初期以降に建てられた織物工場群など勝山地区が 5 件、小原・木根橋集落など北谷地区 3 件、平泉寺集落の平泉寺地区 1 件で、旧城下町や近代産業、農山村に関わる建造物群です。

⑦埋蔵文化財

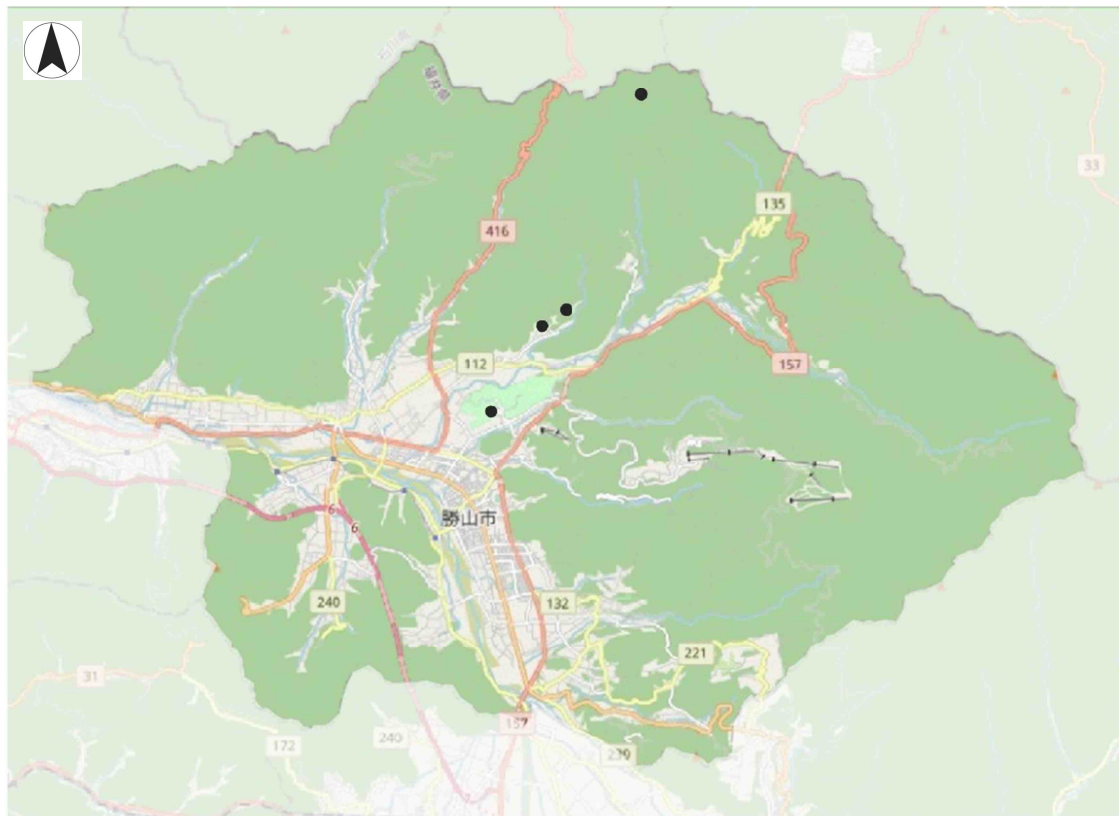
市内には福井県の遺跡地図に記された 135 か所の埋蔵文化財があり、時期は旧石器時代から江戸時代のものです。件数は鹿谷・平泉寺・村岡地区が多くなっています。開発行為に対応して試掘調査や本格的な発掘調査を行っています。これまで北市遺跡や猪野口南幅遺跡、松ヶ崎杉原遺跡、袋田遺跡などで大規模な発掘調査が行われ、貴重な成果が得られています。

(2)文化財の特徴的なテーマ

本項では、第1章で整理した勝山市の歴史的背景や地区ごとの特徴から、未指定を含めた文化財について、以下、13のテーマにまとめます。

①恐竜・古生物の眠る地層(恐竜時代からの地質・生物)

勝山市域は、恐竜が生息していた時代から現在に至るまでのダイナミックな大地の変動の記録とそれらが自然、歴史文化、産業に与えた影響を見ることができるジオパークです。昭和57年(1982)にワニ類化石が発見されたことを契機として、これまでに全部で6種の新種(フクイサウルス、フクイラプトル、コシサウルス、フクイティタン、フクイベナートル、フクイプテリクス[化石鳥類])を含む多数の恐竜化石が発見されました。これらの化石と発掘地は、「恐竜化石群及び産地」として国指定となっています。さらに、同時代の鳥類、カメ類、哺乳類、魚類、貝類などの動物化石、シダなどの植物化石、足跡などの生痕化石等も多数発見されています。産地である杉山川沿いの崖には、化石トリゴニオイデス等包含層(市指定)が露出しています。



文化財の分布



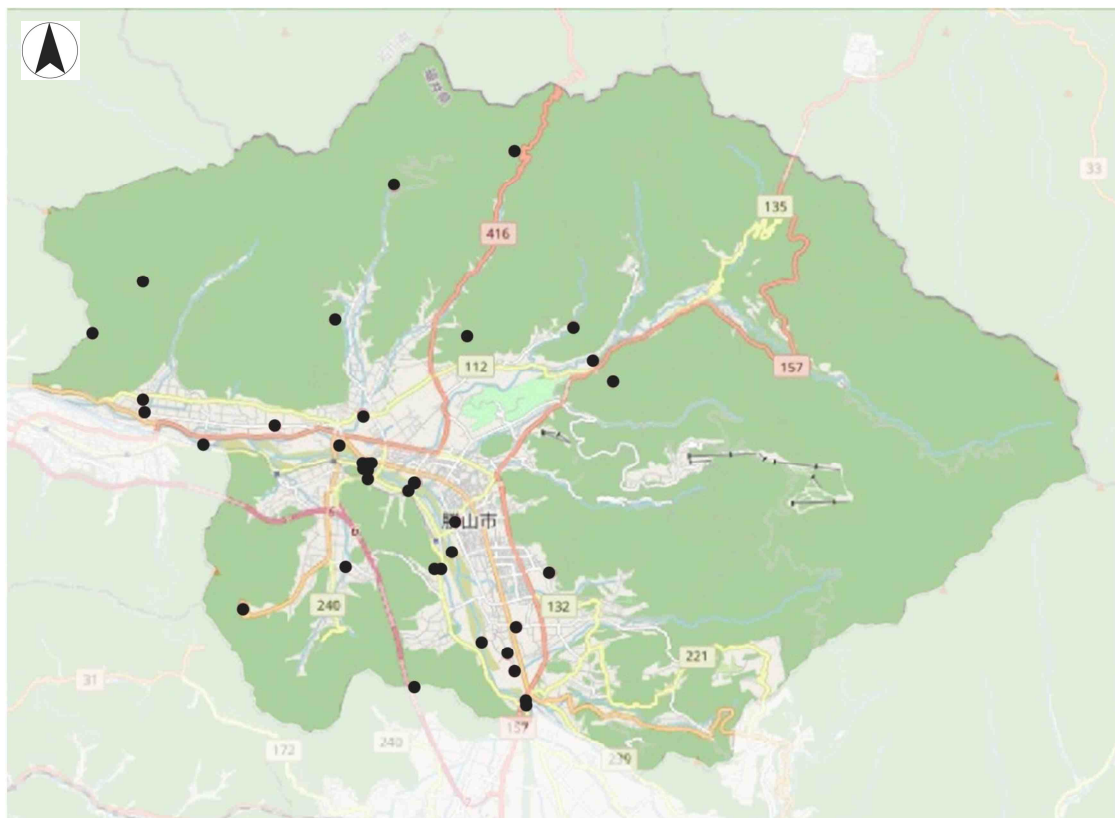
手取層群
(北谷町杉山)



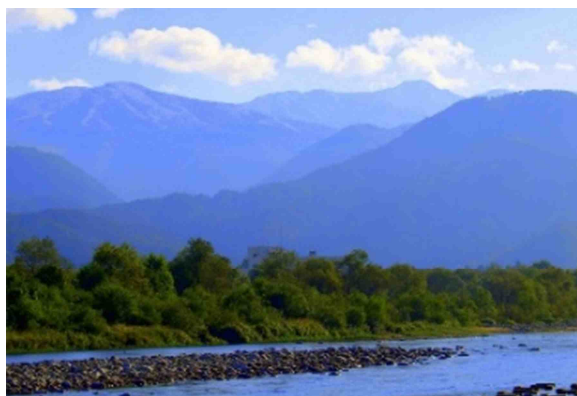
恐竜足跡化石

②九頭竜川とその支流が形成した河岸段丘と小溪谷(自然と風景)

九頭竜川は、大野市油坂峠付近に源を発し、越前の北部を貫流して、日本海に流れ込む福井県最大の河川です。勝山市域では、勝山盆地中央を流れ、周囲を囲む山々の小溪谷からは小河川が流れ込みます。九頭竜川は、アラレガコ生息地(国指定)をはじめとして、多様な動植物を育む場となっています。また、九頭竜川とその支流は、河岸段丘を形成しており、河岸段丘崖「七里壁」(市指定)の際からは清水が湧いて、豊かな水が人びとの暮らしを支えてきました。



文化財の分布



九頭竜川

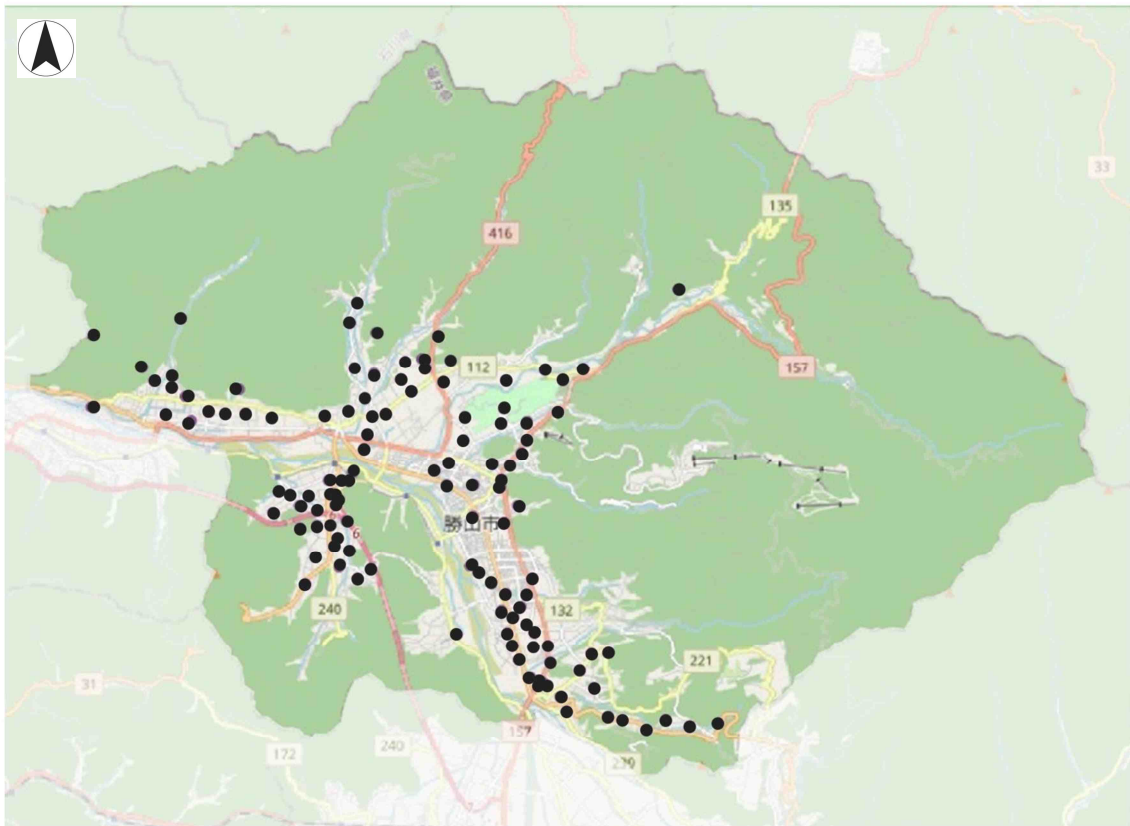


七里壁

③縄文にはじまる山、川の恵み(旧石器と勝山のはじまり、県内屈指の縄文遺跡・三室、弥生文化の伝来、弥生と古墳集落、段丘上の古代集落、大野郡毛屋郷)

三室遺跡(県指定)をはじめとして、勝山の縄文遺跡の多くは九頭竜川やその支流が形成する河岸段丘上に分布しています。また、法恩寺山の西側斜面からはガラス質安山岩が産出されています。ガラス質安山岩は槍先形尖頭器や石鏃などの鋭い刃が必要な石器の素材となっており、長尾山遺跡はその加工場であったと考えられています。

古代の越前国大野郡にあった6つの郷のうち、勝山市域には「毛屋郷」がありました。毛屋郷の中心と考えられている北市遺跡では、多くの建物跡や2万点以上の遺物が出土しています。また、三谷遺跡では「毛屋」と書かれた須恵器の破片が見つかりました。なお、「毛屋」の地名は現在も「猪野毛屋」、「下毛屋」として名残をとどめています。



文化財の分布



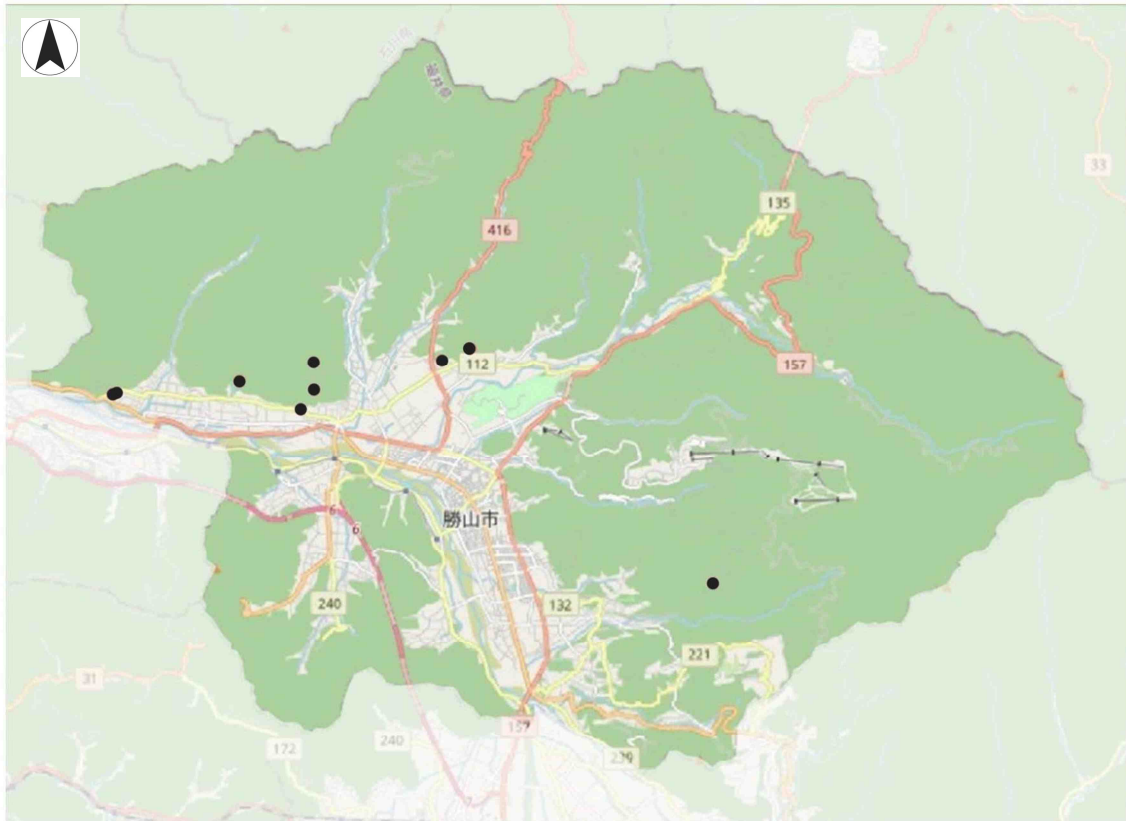
三室遺跡



槍先形尖頭器・尖底深鉢形押型文土器

④ 鉱山と石灰山(恐竜時代からの地質・生物)

安土桃山時代には北袋銀山が豊臣秀吉の直轄地となっていました。17 世紀の『越前地理指南』には、平泉寺の金山、小原・細野口・堀名中清水・檜曽谷の銀山、坂東島の鉛山が鉱山跡として紹介されました。幕末になると鉱山跡で再び採掘が行われるようになります。堀名銀山は、安政 6 年(1859)から本格的な採掘が幕府の手で行われ、良質な銀鉱石を産出しました。また、堀名や細野口では幕末から昭和 30 年代まで石灰岩を採り出して焼き、農業用の石灰が生産されていました。



文化財の分布



堀名銀山の図